

令和3年度

学校関係者評価報告書

令和4年 3月23日

学校法人 東洋学園

宮崎医療管理専門学校

はじめに

宮崎医療管理専門学校では、学則及び自己点検・評価規程に拠り、自己点検及び学校自己評価を実施しております。令和3年度の学校運営や教育活動等につきましても、年度初めに全教職員に提示した要項に基づき、年間を通して評価活動を行い、その結果を令和3年度学校自己評価報告書として取りまとめました。

これをもとに、令和4年3月22日に第2回学校関係者評価委員会を開催しましたので、その評価結果について、ここに報告いたします。

なお、本報告書につきましては、学校自己評価報告書と同様、本校のホームページにて公開いたしますことを申し添えます。

令和4年 4月 1日
学校法人 東洋学園
宮崎医療管理専門学校
学校長 川野 竜太郎

1. 宮崎医療管理専門学校 学校関係者評価委員会 委員一覧

関係機関・団体・企業	職名	氏名	備考
社会医療法人 慶明会	常務理事	牧野 剛	
社会福祉法人 宮崎市社会福祉協議会	事務局次長	井畑 信二	
社会医療法人 善仁会 総合健診センター	統括	川端 利彦	委員長
社会福祉法人 芳生会	施設長	坂口 和幸	同窓会会長
社会福祉法人 恵浄福祉会	園長	川添 教道	

事務局

宮崎医療管理専門学校	学校長	川野 竜太郎	自己点検・評価 委員会委員長
〃	教務部長	川野 哲朗	自己点検・評価 委員会委員

2. 委員会次第等

1) 日時 令和4年 3月22日(火) 14:00~15:05

2) 場所 宮崎医療管理専門学校 会議室

3) 次第

- (1) 開会、委員長挨拶
- (2) 事務局挨拶
- (3) 令和3年度自己点検・評価報告
- (4) 各委員からの評価及び意見
- (5) まとめ

3. 内容

1) 川端委員長挨拶

今年度の本校の自己評価をふまえ、各委員より多数の意見等を出していただき、様々な課題の改善につながる有意義な時間にしたい旨の内容。

2) 事務局（学校長）挨拶

厳しい学生募集状況（結果）、コロナ禍での対応等の説明をふまえ、本年度の取組について評価いただき、次年度の改善に努めていきたい旨の内容。

3) 自己点検・評価の取り組み状況、結果について

(1) 学校評価の内容、方法、根拠の説明 <事務局：教務部長>

※自己点検・評価実績（資料）、学校自己評価報告書（はじめに）にをもとに説明。

(2) 令和3年度評価報告 <事務局：学校長>

※学校自己評価報告書をもとに、主に中間評価との相違（朱書き）について評価項目に沿って報告。

<評価項目>

- | | | | |
|-------------|--------------|-------------|--------|
| 1 教育理念・教育目標 | 2 学校運営 | 3 教育活動 | 4 学修成果 |
| 5 学生支援 | 6 教育環境 | 7 学生の受け入れ募集 | 8 財務 |
| 9 法令等の遵守 | 10 社会貢献・地域貢献 | | |

4) 各委員からの評価及び意見 ※項目順に記載

(1) 項目3

・教職員研修の内容確認

→ 事務局： 職能団体の資質向上に係る研修参加、専攻分野については教員個々で関連する学術研修等に参加している。また、全教職員を対象とした伝達研修会（多職種連携関連）を試行的にオンラインにて実施した。

・研修成果（資質向上、資格取得等）に対する支援、評価（報酬）はあるか？

→ 事務局： 経費の支援やサラリーには反映していないが、校務（時間、職専免）として配慮している。

(2) 項目4

・就職後の定着状況の確認

→ 事務局： 特に訓練生（介護）の短期間での離職が目立つ。公的なフォローアップ制度もあるが成果が上がっていない。学校としても各事業所（連携先）と連携し、状況の確認に努めたい。

(3) 項目 5

- ・ 公的奨学金の利用状況の確認
 - 事務局 : 各修学支援、奨学制度とも、併用を含め利用している学生が多い。制度上、主に学費に関する支援（給付、減免）となっている。特に併給の場合、制限（バランス）があり、当局の調査もある。
- ・ 各団体（医療機関、施設等）が設けている奨学金制度についても確認、紹介し、生活支援とのマッチング等、効果的な活用もしてほしい。

(4) 項目 6

- ・ 満足度調査にもあるトイレ等の改修の状況について
 - 事務局 : 厳しい財務状況の中、教育活動に直接的に係る整備を優先せざるを得ない状況。
- ・ 職場（女性が多い）では、労働環境としてもトイレ等の整備は重要。学校生活でも同様と思う。

(5) 項目 7

- ・ 新聞広告の状況（反応）確認
 - 事務局 : 広報対象を含め、購読者が減っている中、効果は薄いと思われる。現在、HPやインスタ、YouTube等での情報発信に力を入れているが、学びの内容より、学生の動きを通して楽しさを伝える等の工夫が必要。
- ・ 支援学校等、障がいのある生徒に門戸を広げ、学生確保や社会貢献につなげてはどうか。
- ・ 職場（委員所属）でも障害に応じた勤務体制や業務内容で雇用の場を提供している。
 - 事務局 : 数年来、支援学校からの入学がある。資格取得上の欠格事由等はないが、特に肢体不自由等の障がいについては、設備面、バリアフリー関連で課題が多い。
- ・ さらなる東京校の協力（関東圏等での募集）や特色（生活補助等）で、県外からの学生を確保する。
※県内でも僻地と市街地双方の流動を促す官民の取組がある。

(6) 項目 8

- ・ 改善策にある学科新設について具体的な内容確認
 - 事務局 : 臨床検査技師養成学科設置について、ニーズや東京校との関連付け（スケールメリット）等をふまえて説明。
※医療事務や介護、保育等の本質（取得資格と職種）は変えられない。付加価値をつけたり見せ方を変えたりすることの限界。

(7) 項目10

- ・コロナ禍で、関係団体や地域との連携、交流活動の中止や制限がある中、広報活動だけでなく、SNSを効果的に活用した取組を進めてはどうか。
- ※ユーチューバーとのコラボ、関係団体とのコラボ 等

5) まとめ

川端委員長

本委員会での評価や改善に係る意見を、引き続き、第2部（教育課程編成委員会）でも掘り下げて協議、検討し、本校の教育活動や学校運営の改善に活かしていきたい。

※中間評価も含め、全般的に評価が高い項目1、項目2、項目9については直接的な意見等なかった。

※厳しい募集状況に関連づけての意見が多く、また項目7と項目8に係る評価は他の項目（教育活動、教育環境等）に影響していることも窺える。

以上